

婦人関係資料シリーズ
一般資料第33号

婦人と政治について

Ⅱ研究懇談会記録Ⅱ

労働省婦人少年局

は し が き

当局では 婦人参政十周年記念事業の一環として
で 一九五五年十二月十九日に「婦人と政治につ
いての研究懇談会」を開催しました。
この資料はその時の懇談会記録です。
この問題に関心をもたれる方々の御参考になれ
ば幸いです。

一九五六年六月

労働省婦人少年局

目 次

- 一 挨拶 労働省婦人少年局長 谷 野 せつ
- 二 会議の趣意の説明 労働省婦人少年局長 高 橋 根子
- 三 懇談 1. 婦人の政治的関心についての現状
2. 政治啓蒙活動について

出 席 者

(順不同)

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 読売新聞社図書編集部長
渡辺 智多雄 | 東京都世婦人団体連盟会長
小 野 よし |
| 朝日新聞社学芸部長
影山 三郎 | 長野県農政婦人政友会副会長
小 穴 イト |
| 東京都教育庁社会教育課
貞 岡 晴子 | 全国未亡人団体協議会副会長
堀 内 ハ重男 |
| N H K 婦人課
松 岡 励子 | 東京 Y W C A
西 田 穂理子 |
| 全国中央郵便局支部
菅 藤 とし子 | P T A 全国協議会
増 崎 貞子 |
| 私鉄総連
石 塚 美代子 | 日本青果園協議会副会長
若 宮 きぬ |
| 全職同国書記局
山 崎 ふじえ | 日本女子大学生
小 島 恭子 |
| 婦人労働者同盟政治運動委員長
高 橋 千代 | 労働省婦人少年局長
局長 谷 野 せつ |
| 主婦連合会衣料部長
伊 藤 美佐子 | 婦人連合会高橋根子 |
| | 婦人連合会
石 井 雪枝
(副会長) |

今年の十二月十七日は、婦人参政権を得てちょうど十年目にあたります。またこの十月十一日には日本が「婦人参政権に関する条約」の当事国になりました。このことは日本の婦人の地位について非常に大きな意義を持つてゐるわけですね。日頃から婦人の問題をあつかつてゐる婦人少年局長では、これを記念してゐるいろいろな行事を計画しました。先般は「婦人の社会的関心に関する世論調査」の調査を発表し、また「社会とともに進む婦人」の写真を全国から募集して、その入選作品について展覽会を実施しました。今日もその記念事業の一つとして、婦人の政治的関心についての御意見を皆様方からお伺いして、将来の施策に補える資料にしたいと存じます。どうぞ今日のこの会合を意義のあるものにするために、極力御意見をお聞かせ下さいまして、お力添えをお願いしたいと存じます。

二 会議の趣旨の説明

労働者婦人少年局長 高橋展子

趣旨は局長から申し上げたとおりですが、なお少し技術的な点について私共の方のお願いのようなことを申し上げたいと思ひます。

婦人参政権十周年記念事業の一環として、私共の出身である各地方の婦人少年室では講演会や懇談会などを持っておりますが、本場でもよおす会合としましては、参政权実施以来十周年を迎える今日、日本の女の立場がどういうふうな基本的な態度で政治というものを捉えているか、またそれが具体的にどういう行動に現われているかというところを具体的に把握して、婦人の全般的な傾向というものを掴みたいと考えております。そこで今日は、お仕事を通じ、あるいは組織を違ひ、政治に關する婦人の動きについての全般的な傾向を多くお掴みになつてほしいと存じます。皆様方に御出席いただき、それだけのお立場から把握しておられる婦人の傾向についてごく忌憚のない御觀察や御意見を伺いたいと考えて、この会を開催いたしました。

今日お招きいたしました方は、新聞社、教育庁、放送協会などそれぞれ婦人の動きを、仕事を通じて掴んでおられる方々、労働組合や婦人団体、青年団体などの大抵は組織の中で、全般的な傾向、特に第一線における傾向をよく御存知の方で御出席をお願いしました。それからまた、有権者の中で最も若い層を代表する女子大の学生を御一人、新しく婦人の教育というものの研究会のメンバーとして今日、大学生の側で、政治の問題がどのように取り上げられているかというところもお聞きたいと思ひます。ですから私共としては、生きた具体的な問題——女の人が政治の問題にどういふふうに関心しているか、それが具体的にどういふ形で現われているかというところ、また今後の問題として残っているものは何かというところをお聞きたいと思ひます。皆様方の婦人政治に対する御意見というところは、皆様方が捉えておられる「婦人の政治に對する関心」というようなものを、客観的に語って頂ければ結構と思ひます。

それ、感謝ですが、主催者側で一応会を運ぶの役をさせて頂き、あとは皆さん御自由におっしゃって頂きたいと思ひます。

三 懇 談

司会 婦人少年局婦人課 石井事務官

司会 大きく分けて、婦人の政治的関心について現状はどうかということ。それから各組織の中で、政治活動活動をどういうふうに行っているか。またその効果と困難性という二つ。最後に、そういう話し合いの中から今後の啓蒙をどうやっていこうか。この三つに分けてお話し合い致します。と考えています。初めに婦人の政治的関心の現状について。日曜生活と政治との結びつきについての認識はどうかというふうなことからお話し合いを進めてゆきたいと思えます。

松岡

私はラジオの婦人番組を持ってある者ですが、大体ラジオというものをどういうふうに関心する人が聞いて、それを自分の生活に役立てているかということについて、私共の研究所で、聴取率の調査をしたものによつて申し上げてみます。一般にニュースを知る方法は、全国で聴取者の中の十五人以上の男女七千六百名を調査対象としたものの、新聞で知る者一五%、ラジオから知るもの六%、どちらともつかないのが二一%となつております。これを見ても、ラジオからニュースを知るといふものが非常に多く、また男子と女子と較べてみると、男子の方は新聞で知るのが多く、女子の方がラジオのニュースに依存している率が高いのです。これは結局、手を動かさなからでも聞けるので利用度が高いのだと思えます。軍令的に見ると、若い人ほどラジオに対する依存率が高くて、耳元者ほど依存率が高く、職業別では、知能労働者がラジオに対しての依存率が低く、協同労働者の方が非常に多くなっている。また、教育程度が高いほどラジオの依存率は低い。したがって田舎の方が非常にラジオを聞いてる率が高い。こういうところを見ても大体ニュースというものは結局ラジオから得られているということが見られるわけです。その他婦人の

時間だけの調査ですが、婦人の時間を見て、自分の生活の民主化に役立つかどうかという調査では、三十代の人達がたいへん役立っているというものが圧倒的ですが、実際にそれが自分の考えとか判断を決めるのに役立っているというものは意外、中学卒業程度の人が多い。という結果になっております。番組で婦人の好むものというのは初の中は、演藝とか家庭的な番組が圧倒的に多かったのですが、最近になつて、政治的知識を得るような番組というものが非常に聴取率が高つてきているという傾向が見られます。また、ラジオを聞いて知識を得るということだけでなく、聞いたことによる反響が最近見えてきた。その一つとして、投票が非常に多くなつてきている。たとえば、政治的な解説などの番組があります。すぐ「あの講演者は非常に偏つて怪しからん」という投票があったり、もう一つの傾向としては、これは主として政治的といえますが、社会的な番組ですが、今「お助け道場」というのをやっておりますが、主婦婦人の時間によつたもので、日産労働者の家庭で七人の家族でお茶碗が一つという貧しい生活を描いた録音ルポルタージュが非常に反響をよび、一時三十五分にこの時間が終えたら、三十分にはもう電話が掛つて、その家庭にすぐお茶碗を贈りたい、という婦人の方の同情が集り、またたく間にお茶碗がたくさんになつて、私共も困りました。そこでそういう行動を起す。その気持はいいけれども、それだけでは解決しないのじゃないか、その家だけがお茶碗が豊富になつても、全体の幸福にまではゆかないのじゃないかということも考えられ、問題を考えた方々で座談会を開きました。「人情の発展」という座談会で、人情というものがどういふふうに関心を起せば社会の同類として私達の限がもっと開けてくるかということが話し合われたのです。とにかく、単に聞くということからもう一歩踏み込んで聞いたことに反響を起してきているという二つを、番組を持っていて気がつきました。

司会 貞雨さん、いかゞでしょうが。

貞雨 この十年すいぶん変つてきましたし、教多くの方が進歩なさったと思うのですが、その反響は進歩したけれども、具体的な問題になるとやはり旧態依然とした考え方で思っています。実は、よそで申し上げたのですが、再軍備絶対反対ということをや非常に強くおっしゃる方が、若い人の話が出た時、この頃の若い人はだらしがない。昔は軍政があつて仕込まれた、今はその古いものがないからだらしなく困る。だから軍政教育のような、若い人を訓練するところがある。いいのじやないか、とおっしゃる。再軍備について反対といひながら、反面ではそういうことをいう。それと同じように、家族制度なんか絶対復活しては困る。今の民法をもつと正しく理解しなければならぬといふ口の端から、自分の家族のことになる。「この頃の若い者は……」。わたし達の昔はそうではなかった」といふ。このように具体的にない時は非常に革新的であるけれども、具体的にになると、ほんとうに切り替へていけないといふことを最近よく感じます。

もう一つは、頭ではできてもいざ実行となるとそこまではないかな。難かしくてくれるだろうという考え方が強いのではないか。要求としては、学校がたくさんなければならぬといふ、戸がら選挙の時には、それと政党との興運は全然成立っていない。といふようなことがしばしば見られます。

渡辺 今の貞雨さんの話に困るんですけど、結局最後にもまたどこかでスレてしまふんですね。P

TAの会合などで、自分だけの親子といふのでなく、子供達に親戚といふ親戚で考えましようと言つてよくわかる。自分の家の子供の問題も、自分の家の子供だけのことと考えても解決するまい。子供達全体の問題の解決をしなければならぬといふことは、よくわかる。ところが話がさ

うに進んでゆくと、「けれども自分は、子供に老後を見てもらわなければならぬ。老後を見てもらうのはわたしの子供だ」と言う。折衝極端で考えたのに、自分も子供達に見てもらつていふ気持ちになせぬないかといふことを考える。

それから大阪方面の例ですが、ある市長さんが、部落の婦人会といふのは共産党より怖いと言つてゐる。部落の婦人会は非常に一致団結していろいろな要求を市長のところに向つてくる。そして、デモでも動かさない。そういう強い婦人の団結から出た要求で、保育所、図書館も作つたし、部落の施設についてはたいへん豊富なものを作り上げた。しかし結局これは、部落婦人会といふ動きも出ていない。部落エゴイズムといふものを感ぜさせられる。たしかに部落だけの団結はした、自分達の要求をどこに持つて行つて、どういふ形で世にばいといふことかわかつたが、もう一つそれをつまびらかにするところがほしい。いふことをつくづく感じた。何か、そこにゆくときは自分だけで閉じ籠つてしまふものを持つてゐるといふ感じがする。

たしかに何かが出てきたが、正しく押さえないと途中で曲つてしまふ。残念なことだと思ひます。それからそういう政治的、社会的関心を持つ婦人等といふものがやはり一部の婦人に限られてゐる。これは貞雨さんよく御存じですが、社会教育をすると、集つてくる人達はその地域の支配者の同族関係しかない。村長さん、村会議員、いろいろな団体の役員、それにつながる同族的関係者の社会教育になつてしまふ。日本の農政は三割農政といわれているが、このいふところにも三割農政しか現れていない。婦人のそういう関心が深まったとはいふものの、全般的に言ふとかなり少数の、一部の婦人達でしかない。これをもつと下まで下げてゆくにはどうしたらいいかといふことは大きな問題ではないかと思つてゐる。

司会 農政の方、その呉、いかゞでしょうが。

小穴 養育の方では、養育物とか統制とか、生産物が即政治に影響される面が多いので、政治が養育生活に浸透しているように思えます。

渡辺 しかし、農村の指導者は富農層だから、そういう人達が貧民を集めても、富農的立場で指導している人達の政治的考え方が強く出るので、食しい農家の人達の関心の持ち方も違ふと思う。

小野 積極的に自分でも追求してということではない。

小穴 政治がこうだからこうなるというハッキリした認識で進んでいるのではないのですか。

渡辺 だから一方的に押し込まれるものを受入れる体制だけはある。しかしそういうことで政治的関心があるということはない。

高橋 養育 先程からのお話の中に、類だけは進歩的で、具体的には矛盾があるという表現がありましたが、たとえば家族制度についても、制度としては反対を喝えても、自分の家庭の場合は、自分の息子に大切にしてみようと思わなければならぬとか、またPTAのお話についてもありましたが、そういうふうな考え方が分限しているわけですね、それをみなさんはどのように分析しますか。いますでしようか、たとえば家族制度について反対というときの反対は、観念的に、スローガン的に飛び付いているというふうな考えでしようか、それとも理論的にはそういうふうなことは充分にわかつているが、日本の現実の生活が不安なので、現実論はこうだとわりきっているのか、それとも類のなかで混乱しているのか。

渡辺 やっぱ現実生活が理論どおり割り切つてゆかれないでしよう。矛盾のバランス、そこに成り立っているのが現実生活ではないでしようか。家族制度に残されているものを是認して、その上に乗っからなければ現実生活をやってゆけない、それからもう一つは家族制度についての意見も婦人なら婦人の立場で肉親的に考えた家族制度ではないか、婦人の立場を考へることは賛成です。

が、さて子供に対してどう要求するも、子供はやっぱり親の意見に反したってもしたいというのでは、一貫した考えというものはない。

司会 それが先程おつしやつたエゴイズムにも通ずるものでしょう。生活についての発言などは豊田になつてきているようですが、それが政治統制との結び付きということになつてくると非常に稀な話になつてくる。たとえば選挙などに対して感情的にもろい矢があるのではないでしようか、郷土愛の五考えから、郷土の人を輝かすというふうな婦人連もあつたり。

堀内 今の問題ですが、まだまだ御都合主義といえますか。そういうところがあるのではないかと感じます。たとえば自分の都合のよい時には今の態度でいいと思つて、都合の悪い時には、こういうもののは改正しなければならぬということが多い、家族制度についても、農村の婦人などにいゝとか悪いとか、わかつていない人が多いと思ひます。

渡辺 これは富農層の方から出る話か、婦人と青年団女子部の人が一緒に話合ひをする、その時、お母さん側に立つ婦人側の人は、娘さん側の話を非常に理解して、その場ではなんでも善悪、悪善結核、と言つて、家に帰ると、あ、いふ程度上で出たようなことをお前は、いゝとは思ふという。また、一方にはうやうや言ひされて、同様にゆく娘さんも多い。

結尾 それは、女子青年団の会合は、養育のある人より出て来られない、婦人会の会合も青年団の会合も、そういう兵とは同じだと思つて、腹がある人達はある程度の小遣いはあるし、自分の思ふことはある程度できるから、現実とどういふことをしなればならない、というものを得ていない、向應を保持している人は出て来られないのでこの人たちの腹いというものをどの程度までゆくかというところが青年団の問題になつてゐる。

高橋 婦人会に出てくる人は少数の幹部で、その出て来る方達は非常に関心を持っているのですけれども出て来ない人はいつも出て来ない、それで有権者同盟では、最寄会や井戸端会談的にして、まず、会員の近所の方に、スライドをお見せしますからいろいろして下さいというようにする。なだでも来て下さい、赤ちゃんを連れだして、そういうように、下部まで関心を持たすということはとてもたいへんなことです。毎月きつています。

司会 今までの御発言では、どのような会合をもつて来つてくる人達は、婦人団体でも青年団なども暇のある少数の上層部の人達で、一般の婦人の政治的な関心というのとはなかなか相合ないし、差のひやないかという御発言が多いようですが、その点で、影山さんは「ひととき樹」の御提言の方として、婦人の関心はどうかという面にあるとお考えでしょうか。

影山 今までお伺いしたいものとおちよつと違う点があるということを申し上げたい。まず、さつき、エゴイズムの同僚がいろいろすることに関連して来たのですが、これは女性に属したことではない、個人と公共、家庭と社会というよりなものとの区別とか、何れ方とかがいくところに向きがあると思う。それから上層部、あるいは決つた人達だけがいろいろなところに出て政治的な啓蒙をお互にし合うということに対する批判も出てようですけれども、私が見てみるところでは、新しい層が極めて徐々に動いているのではないかと思います。新聞というものは非常にせっかちで、いわゆるジャーナリスティックなものです。が「ひととき」は新聞の一つの企画ではあつても、およそこれは新聞のスピードには関係なく、きわめて緩慢な動きをしてわけです。具体的な例として、日常生活と政治ということに関連して経過を申し上げます。そこに一つの典型というものが現われていると思う。

「ひととき樹」が始まつたのは、昭和二十六年十月一日からで、実際に一般の主婦、地元の人達が書き出したのは二十七年の一月、現在まで四年経っている。婦人が参政权を得てから大分目に、一つの憲法的な企図として、あるいはそういうものが生れる歴史的必然性というか、そういう面方がマツチして始つた。その価値が認められるとすればおそらくそういうところにあると思う。この樹を始めた頃に書いた人は何れもPTAの投資をされていゝとか、婦人団体の幹部の人達です。ところがそれがその後、そういうことには関係ない人が圧倒的に多くなつてきた。地域的に見ても、はじめは東京の山の手に限られていたものが、東京の中のある層、たとえば三多摩とか、あるいは葛飾のようない工場地帯の主婦がどん／＼出ようになつてきて、それをやがて埼玉、静岡、長野県に伸びて行つた。また内容的にいづても、幼稚園、小学校、育児、健康などのことについて多かつたのが、PTAでこういう話を聞いた、自分はこう思う、というよりなことが多くなつてきて、内容的にも徐々に変化してきている。そしてまた何々に意見を吐いて、たものが過去三年間の経過で、だんだん広がつて、一つの組織になつてゆき、各地にブルトスができた。そういうところに形み、動きがある。

「ひととき」に書いてある人はどういふ人か、これは一概には云えないが、無限大に広い。ここに「ひととき」の特徴があると思う。

司会 今、新しい芽が見えてきているというところでしたが、労働組合なんかではいかゞでしょうか。有藤 私のところの百名足らずの女子の中、半数は家庭を持ち、年令層も高いためか、政治問題にかゝらず、組合問題にも関心を持たないという程度です。何かの機会に集りを待とうとするが、なかなか集りない、何々には参入しているでしょうが、なかなか自分の考えを發表しないから、政治問題で一般の音がオフィスの中からは出ていない。

司会 たとえば保育所とか、卒園施設の前で婦人の側から要望が起きまゝとつてゆくといふことは

どうでしょう。

青藤 保育所の問題も、共産党の人がふえて関心はもっているのですが、まともな要求しようといふところまでゆかない。休養室の問題も同様です。

司会 その他お気付きのことがありましたら……

伊東 先程影山先生もおっしゃいましたように、婦人は身近な問題が一番わかり易いんです。私共は経済運動をやっておりますので、皆さんとお話しをする場合、風名實、電車賃、水道料というものは身近な問題から、どうしてこんなに高いのか、またどうして値上げされねばならないかという話をして行くと、台所には政治が直結しているんだというふうなことが徐々にわかって政治というものを身近なものに考えられてきます。けれどもまた家族制度の問題にしても、この向地元の学校で、社会保障制度の講演を聞きました。聞く時はみんな熱心して聞いていたが、内をぬけて帰る時のさ、やきと聞いてみますと、「先生の話を聞いていたうとも淋しくなった。子供と親という繋がりがないものになつて、親と子は別々なものになつた気がした。今日ほど淋しい思いをしたことはない」と話をしている。まだ女の人達が社会保障制度の本質を理解していない。これはやはり気長に、あかうせてゆくというこゝで解決してゆくよりないと感じました。

面田 私共のYWCAは、宗教をもつて一つになつていゝフルーフですが、政治問題というこゝに対してたいへん力を注いでおり、講演会や、社会問題研究会など開いていゝます。産婦人の方は火分関心をもつて、出席が多いのですが、家庭婦人は、苗字番がないとか、時間の都合が悪いといふことで、出席率は悪い。

私共の最寄会を例に引いてみますと、選挙などがある時は一生懸命みんなを動かしたり、組合いをしてますけれども、それが済むとまたやめてしまふ。それでは私共の仕事をもつとよくするため

には充分でないので、最近はおりの区会議員に呼びかけて、足許の社会のことから勉強してゆくと今話し合つております。

司会 女子大生の間ではいかひですか。

小島 先生、学生の寄与地での選挙権の問題が国会で取り上げられましたが、あれを機会にして、政治に関心を集められたと思います。その時も署名運動や陳情、学生自治会も動きまして、それに付いて関心を示しました。

もう一つ感じていることは、先程渡辺先生もおっしゃいました。家族制度の問題で、私達は将来に対して非常な期待とか夢を描くのですが、やはり實際問題となると、お母さんをどうしようとか、家に残した兄弟をどうしようと思ふと、どうしても自分の理想にまっしぐらに突進してゆくことに誘導してしまふわけですが、まだ社会的な背景、親と子がそれぞれ独立した生活をしてゆくに足る社会制度というものができていない。たとえば、女の一人を待つたお母さんの場合、子供が独立するのは有難いけれども、心づかり老後のことが心配になり、また、私達としても隣隣してしまひますし、そういう事で、早取つたお母さんのための社会保障制度が、もつと完備してくれればいいと痛切に感ずるんです。

学生の傾向としても、近頃は非常に社会保障制度というところが研究課題として取り上げられてきています。それから売春の問題とか、母子家庭の問題、親系女工の労働問題なども、考えようという機運が起つてきて、卒業論文にもずいぶん取り上げるようになってきた。そういうことは、政治的関心を示す一つの指針ではないかと察しております。

高橋議長 何か日常生活の問題を政治に結びつけて具体的にどうしたといふことはございせんか。市内、私共は未亡人団体でありますために、切實な問題で政治と取組んでいるわけですが、父親のな

い家庭で子供を教育するお母さんの生活の問題、この生活を保障する社会保障制度をどうしても押し進めてゆかない限り、お母さん達は生きてゆくことができないという状態です。何年か前から次第々しい運動を続けてきましたが、こういうことから私共は政治についてずいぶん深い関心で組織を通じて持つようになった。子供の教育の問題、物の分配の問題、お米の問題等、身近な問題が非常にあるので、政治問題を大きく取り上げ、組織の中でお互いブロック、ブロックと集まるようにしているのです。

田代 今の未亡人団体の方の御意見には全く同意です。婦人は選挙権とお米、自分達の代表により母子家庭、未亡人家庭の問題、社会福祉の問題等を解決してもらおうという面が現われ、それによつて政治という概念が身近なものになつてきます。

石塚さん、組合の方達の組織の程度とか、こういう問題に面があるかということをお話し頂きたいと思ひます。

石塚 割合に短い勤務年数で若い人も多いが、あまり政治には関心がないと思ひます。婦人の政治意識を高めるためにいろいろ反省をされているが、あまり関心がないというのが実情です。

若宮 青年団では、女子も男子も一緒になつてやっています。い、傾向としては、簡易水道などを村に作ろうということ、果の予算で作ってもらったということ、ところどころかなりあります。これは青年団が始めに調査をして、お母さん達が困っているということがばつぱりわかつたので、果まで行つて解決している。

特に女子青年が取り上げているのは、季節係留所です。十日間夜間ぐらいて、暇のある人が手伝っているが、おやつがほしいとか、おむつとか、洗濯道具を買つてやりたいということが出てきて、共同募金をもつたりしてやっています。お母さん達が困っているのがあります。

また面白いのは、栃木県、山形県で、農道がグニャ／＼になつていて、能率が出ないというので、設計図を作つて、農業委員会と話し合つてきれいにした。

それから、夕メ桶を、どこでもかまわずに置くのはいけないというので、夕メ桶の共同設置をやっている村もあります。それから、公民館の設置運動というものは、婦人会と一緒に取り上げ、ずいぶんやっています。この間、埼玉県の大宮市に行つたが、これは新しく合併になった市で、市の庁舎がない。新築するには相当の予算が必要なので、公民館に仮住居するというところで、公民館が潰れることになった。そこで青年団の人達は市議会の傍聴に行き、社会教育を推進しようとしているのに、公民館を潰されては困る。公民館をそのまゝにして別に市庁舎を造ろうという運動を展開していた。

また、もつと米を高く売りたいという願ひをどうしたらいいかわからない。このことをお母さん達はどう考えているか、百姓をやっているお母さん達はどうか考えているかという調査などもしています。

高橋課長 簡易水道というのは、お母さん層の方が本来は娯楽に費つていて、そういう時に大人の層はどういう動きをなさるのですか。

若宮 お母さん達も、そうするのはいいことは知っているんだけど、金がかかる。金がかかからないようにして作ろうというところまで考えがゆかない。そういうのを青年団が調べて一着に手をつないでやるところもあるし、青年団だけでやっていると、ところもある。

増崎 PTAの会費は、階層もあらゆる階層の方がいますし、恩恵的にもまちまちで、いろいろな面でお母さんが政治に関心を持つて来られるようになったのは、義務教育が無償であるという原則であ

りながら、戦后PTAはPTA本来の使命を失った完全な活動ができなくなったところにあると見えます。PTAが組織された当初は子供達に教育を与えるだけで一生懸命だったのです。どんなに落ちいてからはお母さん達もいろいろの義務教育という団体の負担に少しも持つてゆかなければいけないという考え方を自然に持つてきたわけですが、初めは義務教育の負担というものを叫んで政府に陳情するとか、要望するとかすることだけで終っていた時代もありました。今日では、幾分でも義務教育を築いて、それを教育施設に廻すとか、地方公共団体なり国家なりの負担でなければならぬものも自分達がだけだけ出しているかという実態調査をするという形になり、その中でも、自分達が現状どうしてやらなければいけないことは、これだけ負担しているんだから、この半分なり何分の一かは出して頂きたいという線をもつようになつております。政治というものに関心のなかつたお母さん達もある意味で痺びていったと思ひます。

また、不良文化財の問題も、最近いろいろ新聞などにも取り上げられるようになり、婦人の方方も自分の子供をよくするということ、自分の家庭内だけの解決では不可能であるということを知つて、近所の方々と話し合つたり、学校でも話したりして教育的な環境を作るといふことに努力しつゝあるようです。PTAは初めはアメリカの憲法によつて作られたものですけれども、最近では自分達のものとして身近なものを解決するための実態に即した活動をしてきています。政治というものが自分達にどういふふうな関係をもっているかといふことを、子供の教育を通じて、徐々に自覚してゆき関心を持つようになつたと思ひます。

山場

私の方は、軍令が未成耳者という状態から一般的に低調です。やはり日常生活と政治の結びつきといふことにすると、實に生活する人が多いために待遇改善が要求されている。農村では家事が複雑な方に反して、農村は粗末ではあるが、水道もガスも電気も整っているのだから自分の家にあるよりもいいし、それをさらに改善することに一生懸命にやっています。けれども会社をやめて帰りますと又農村の方では電気が通つていない生活をしてなければならぬ。東京幹部として一生懸命やられた方が、農村に帰つて農生活をやつてきた方が生かせることができれば大分望むと思う。農村が徐々に青田の方達の運動をよくなつてきているといふこと、それから細部の中の人達の運動がどこへ行つても生きてゆくといふ形になつてきますと、人々によくなつてくると考えられます。

渡辺

工場をやめて農村に帰る女工さんが、農村の生活でどういふことをやっているか。おそらく工場の近代施設の整つたところから帰つてきて、おまじりのみじめさに、何とかよくしようという気持ちになつていくわけじゃないか。そんなふうに関わっているかと思つて私は農村に帰つた人を追いかけてみたが、一旦戻つても農村にはいない。すぐ町に出て行つて、町の生活に入る。それから、家庭には、帰ると言ひながら、工場にいる時買ったダンスや所持品、工場の近くに預けて、身柄は一旦村に帰るが、また戻つてきて、やはり都会の中に入つてしまふことが多くて、工場の近代生活を村に再現しようという意欲をもつて具体的にやつていくというところを回して、私に私の追及が水泡に消した実例がある。

それからPTAのお話が出たが、本を掛けるような要綱ですが、学校PTAまではお母さん達はたしかに出ていて、ところが学校PTAになると大分少なくなつてきて、今度はお父さんになる。それから町のPTAになると半々くらいになる。町になるとほとんどお父さんが多い。実は茨城

のPTAに呼ばれたが、いつもPTAの会はお母さん方ばかり思っていたら、東の連合の集り
なほはお父さんばかりだつた。大きなPTAになると行政財政の問題が論議され、面持ち供にぶつ
かつての教育的な問題では無い。そのためにこういうところにはお母さん方は出てこられ、です
から戦前のレベルから見たら一般に關心は高まっているとは書えますが、要してこれは、いく
らかでもよくなつたと喜んでいいのか、どうも私は、何んとかしてゆかなければならぬという
ことを苦しい思いを感じている。

高橋課長　つまり民主主義ということば、理論としては納得できるが、現実生活に受けとめられ
るうかすると何とんじが家から家のエゴイズム、団体から団体のエゴイズムに負つて、叩つてし
まう。実は家族制度が未だに残つてゐるということも、何んとうは日本の昔の政治は家族制度を
基礎にして成立つてゐたが、家族制度をこわしたからといつて新しい政治が行われてゐるかとい
うと、それは無い。だから、筋の上では家族制度はいけなさと理解をしながらも、自分の家では
依然として家族制度は存在していくという現実になつてゐる。婦人の政治的關心は高まつたと言
いながら、実はほんとうの政治に目覚めていないということを感じさせられる。

影山　みん反動では考へてゐるが、実際にはそうでもないということだ。政治がよくならなければとい
うことに突当るのはたしかです。しかし、政治はわれわれ自身の考へ方によつてでき上つてゐる
ものですから、それが悪いという前に、もつと身近な壁でということだす。すぐなるも壁がこと
がでる壁もあるのはないか、それがでる壁がないで、くじりまうになつたりしてゐると思ふ。し
かしそれが少しずつ新しい側に道を切り開いてゐる事実もあると思ふ。

渡辺　僕等が新生活運動をやつてゐる村で、あるところまでゆくとうにもならなくほつて壁を取りし
てゐる。小さいところで壁がめづりしてしまふ。そこにもう一つ新しいものがあるということだ。

私は申し上げたい。

影山　たとえば封建制ということば、歴史的には言われますが、いつたい封建性とはどういうことだ
という言ひが要ります。農村の壁とされてゐる世代の選りどが、学生と親の場合とか問題になつ
てゐる封建性を置き換へなければならぬ。

松岡　同時に、主婦がラジオを聞いて、一つの知識を得て、それが家庭で聞いたものと矛盾を感じ
るので婦人が政治的にどういふかに同調しようかということになつてくると、今壁とおつしやつた
が、家族の理解、男性の理解というやうなものがすいぶん壁の中にあると思ふ人です。男性の方
が非常に早く進歩的になれば、日本の家族の中で、女も早く進歩的になつてくると思ひます。女
が新しい知識を得た時でも自分の旦那さんで理解させることが難しいために壁を破ることができ
ないで、ずるずるやつたりになつてゐるということが家庭生活の中にはかなりあると思ふ。

伊東　私達の例では、自治団体の理事の半数は女が出ております。町のことをするにしても、進路に
しても、政治的に動く場合でも、男の人と対等の意見を吐いて一緒に仕事をしてゐるという例も
ございまして、その町なり村なり、男の人と女の人と対等に、半数の線で、女の人が進出して
ゆかれるというのは程遠いことではないかと思ふのです。

司会　日常生活と政治の結び付きについての認識は、非常に低調であるといふ御意見が確かだと思
ひますが、直接自分の意思を現わす選挙に対する関心はどうかということに移つてゆきたいと
思ひますが、その前に課長の方から私共で行つた調査の結果について御説明申し上げ、それから
個々の組織の中での傾向ということに入つてゆきたいと思ひます。

高橋課長　四月の婦人運動に私共で実施しました婦人の社会の関心に関する世論調査の結果の概要を
申し上げます。新聞に発表しましたから御覧になつた方もおいでなすしやうが、この中に、選挙に

に対する態度と政治的態度という一項があります。この調査は東京都内で実施しましたので、全国的傾向とは違つてくると思いますが、その中で候補者を全く自分だけで決めたという人が七五%、多少とも諮をしたりしけれども結局自分で決めた人まで混ぜますと九五%になつております。これはこの調査実施直前に行われた総選挙の場合について聞いたわけですが、一般的に聞いている場合よりは信頼性があると思います。四年前の婦人選挙にやはり同じく東京都内の婦人を対象にして調査しましたが、その時は、自分の考えで投票すると答えた人が三五%でした。また家の人と相談して結局自分で決める人を混ぜますと六二%、それが今年の調査では九五%です。次に保守的の政党であるいは革新の政党という言葉と分、政党や候補者の公約があつたことなる、選挙に必要の準備知識をもっている人はかなり多かつたわけですが、それと得た経路として、これは松岡さんのお話とも関係がありますが、新聞やラジオによる人がかなり高くなつております。これに比べて選挙公報を参考にした人は下廻つていきます。なお四年前の調査では、政治のことについて二〇%の人が新聞やラジオを読んだりと答えていたに過ぎなかつたのです。

ここで問題と思ふのは、そのように非常に多くの人が投票を自分で決めており、また保守的の政党、革新の政党という概念は知つておりながら、それではあなた自身が投票した人は保守、革新のどちらの政党かと聞くと、答えることのできない人が、投票している者の中の四割もあつたといふことです。一応自衛的に投票しているといつても、なういう意味で投票しているかといふことがあまりハッキリしてはいないやうにとられるわけです。しかしこれは四年前の調査の時にも、当時の内閣であつた吉田内閣について聞いても、知らない人が三七%に達といふことと較べると

今回はいろいろも政党について知つていた人が七二%、公約について知つていた人が八一%ですから、比較的進歩のあとが見られるやうにも思ふのです。個々の候補者については、さういふ点からさういふ候補者に決めたかといふ最後のところになりますと、人物を重視した人が多くなつていて全体の四三%です。人物を重視した人は保守的の政党に投票している人に多い。次に婦人のために働くやうな人へ公約の中などにあることを条件にして入れたかどうかが聞きますと、六四%の人は、別に婦人のためといふことは意識に響かずに投票をしていきますし、また婦人候補者かある選挙区の場合、婦人候補者に投票したといふ婦人は一四%に過ぎません。

司会 私共の調査の結果からはさういふ傾向が見えただけですけれども、皆さんの組織の中の内閣は

渡辺 よく数字が合つていますね。大体、政党——保守が革新から戻りといふ数と、人物方面と

高橋 自家用車で歩くやうなお金持の奥さんには、政治というものに全然関心がない。それから知識層は意識して投票友といいますが、高齢のおかみさんに聞きましたところが、私のところは三票しか

小野 主人は誰、私は誰、偉は誰に入りましたという。それで、選挙に行かずにやならんといふことはわかつていて、でも同意かといふことはわかつていて、保守党とか社会党、そつちに入

司会 選挙の結果が自分達の生活にどう響くかといふことが認識されているかどうかといふ点はいか

若宮 青年団の女子は、二十四才やらいになると大抵結婚して田を抜けてしまふのや若い人達が多い

その人たちは自分達に一番関係のあることを考える。村会議員や県会議員は職故関係が多い。國の政治と違つて、村や市や県というのはハッキリした政党政治ではないと思つて、ハッキリしたものを求めて、モヤモヤした関係で選挙するのが多い。国会議員の選挙の時には、わたしは選挙で通つてゐる、こゝで電化してくれると言つたから、電化してくれれば都合がいいなということに投票した。しばらく見ていたらその人が照像事件に関係したのでガッカリした。それから青軍がいた。結局わたしは頼りにするのは、人に意見が聞くと。というより演説を聞いて人物をたしかめることだと思つた、という。

それから山形の女子青軍は、自分達の友達で青軍婦に転落する人が多いのでこれは何とか救わなければならぬといふので、青軍法を制定する、更生施設をつんと作る、といふことを掲げてゐる代議士に入れた。しかしこれもこの國の国会を反対されてゐるので、今度は政党で考えなければいかんといふ意見が出てきています。

それから、青軍団としての選挙活動が今一番問題ですけれども、今までのように公開選挙といふので、棄権防止とか、マイクで、正しい選挙をしましょうとかいふ運動でいともだめだといふことになつて、どうしてもお人好しなやつで、この人と思つた人を担ごうでは方いかということになつてきた。ところが国会議員の場合は問題ないけれども、村会議員、県会議員になると、青軍団の中には親戚の人もあるし、青軍団全体としてはバラバラになつてしまつた。このように青軍団全体としてこの人、あるいは自由党とか社会党といふようにまとめるのは無理だと感じ合つても、去年、今年あつたりの傾向では、政治研究会などという形ができて、そこをハッキリした人を推している。長野県などは公認して推している。山形でも五名ほど県会議員に当選させてゐるし、村や町でも出している。今までのように、この人がいいからといふ形で推薦するといふのは

行き詰つてしまつた。

堀内 地方選挙の部落推薦といふのは、地方にいてゆりにくくなつた。たとえば婦人団体あたりでこの人がいいからと説が出ても、部落々々で推薦しますと、その人が出にくい。地方の村には、男のホス即ち方がたくさんおり、婦人全の人が出ているからといふので他の部落の人を推した場合は、村八分とまでゆかなくても、圧迫がある。最近町村合併で今月あたり選挙が行われたところもあるが、ほとんど婦人は落ちてゐる。私達から見ますと婦人が役立つといふことがわかるのですが、部落からとんでもないようでも、推薦されるとその人を選挙せざるを得ないといふ実情です。ことに町村合併によつてそういう傾向が多い。

司会 部落推薦した人を入れないと村八分に反する可能性があるといふことですが、誰を投票したかといふことがどうしてわかるんですか。

堀内 票数がわかつていますから、どこかの動きでわかる人です。これは最近の実例ですが、そこでは部落々々で寝に反ると焚火をしまして、この中に一歩もかみ込まないといふことで、その人はどうしようだめでした。

小野 戦争中からいわれている米や麦の責任出荷のように、誰に何票、誰に何票と指導権を握つてゐるのは、戸主権の古い世の戸主で、そのことは前もって連絡されていきますから、一人二人が違つたことをすればあれは態度がへんだからとハッキリしてしまふ。自分の持つてゐる権利を、縁故者だから、お世辞になつたから、といふので、折つてしまふんです。

結局、新り込るとか、戸候、歩哨、とか、戦争当時の言葉が大体使われている。

アメリカの婦人といわせると、日本の婦人は長足の進歩だといふ批判があります。徐々に進歩

小野、そうするとやつかり選挙管理は女の人で与ければ良くなる。出したくはない候補というのがある程度公明選挙によつて落れますね、

小穴　ちよつと申し上げても、人物本位と党ということゝすが、ほんとうに政治する方らば
党ということ、が主眼でございますけれども、過去の汚職阿諛から、人物をよほど吟味しなけれ
ば……ということも、田舎の人は傾いたようぢやす。それから、連立制の強化の問題は非常に地元を
出ました。

司会 本當に自分の意欲をそこに現わすことができまいというふうなことに付いていかがでしようか。

小野 女の候補者が出たから女に入れるという考えはもう誤れたと思います。だから女の方にも、男の方が政治的魅力を感じるといふことになつたら男の票も入つて當選するのじやないですか。

司会 ボスがバツコするのを排除することができにくいというお話が出ておりました。その人自身の考え方にまだ齟齬がないかという点、いかがでしようか。

堀内 女の人達をもつと考へなければいけないと思ひます。これは決して、女ばかり女に入れなければならぬといふことではない。けれども、婦人で立派な人が出てゐるにかかわらず、男の格好の人に脅がされて、そちらの方に走らなければならぬといつてはやり方は、もつとも婦人が腹若といふものを反省しなければならぬ。また、婦人が婦人として肉め出すといふ問題もすいぶん方々にあります。婦人同志のゆたみといふものも出てくるので、いろいろな点でもつと目覚めなければならぬ。

邊界を要するに外の政治の問題より団体自体の問題と思う。有力組合にも言えると思いますが、最も

民主的互団体である需むのが、なかなか末端までゆくとそうじやないのがある。管内団体でさうですから、地域の自主的な団体という看板を掲げた団体が、実はさわめて偏見のあつたりする。選挙の時互にこつこつという団体が果す役割は実におそろべきだ。現実には町や村、地方に行つて、その婦人団体を見ますと、この婦人団体の指導者といひますか会長、副会長は何れもさういふ選挙互に勤く大抵は、小ボス、それが労働組合のように全済的互共進互問題に連つてゐる団体でよい。その地域が婦人会を一方的に動かすのですが、そこにはおそろべき煽動が行われてゐるということば散つべくもないのです。

小野　その御説御尤もと思ひます。この春の選挙には、適當な人を立てて、桂すという事はやめて、公明正等々を掲げしやうという御をやつた筈です。

渡辺　ところが公明選挙と言いつながら、会長さん、団体の長さんは綱要込みの対象です。自分の組織を
通じてその力をやっつけている。それでこれから会員は氏と人と分けられたい。ですから票数だけがキ
ケツと出てくるのです。

小穴 長野県で十か、一つの団体十長というものは絶対に一人の候補者を担がないという主張のもとにやつております

小野 弘共の団体でもよく推進しております。

伊東 六分地区によつて違ふと思ひますが、先程から皆さん言つていらつしやるように、親と名の付く若成一人の誤謬を推さないといふことを建前にしておりますけれども、やはり前に会長としていらつしやつたことで、スバイ行馬とか、いろいろなと利益的に乗りをもちつて動くといふような方

も中にはあります。そういう方はやはり婦人会の長としても長続きしない。必ず脱落していつております。それからインテリ層の方の選挙に対する関心を調べて見ますと、一軒のお家で親子四人いると、その四人がそれぞれ意見が違つて、若い方は革新派、お年寄りは保守派ということになります。選挙の前になると必ず大喧嘩がある、というふうなこともあつた。ところが、それとばかりでなく、選挙の前後の方ではやはりその中で候補者を出して入れなければいけません。それと旦那様から奥さんの方にこの人はいれろということを入れるということも大分あります。けれども大体婦人会がとに出ていらつしやる方達ですと、そういうことはあまり賛成していらつしやらないようです。また私達は自分の地区から出て区議会議員を全留招びまして懇談会をいたします。そしてその方の抱負なり希望なりいろいろ面を伺う。当選した以上はやはり報告するだけの義務があるだろうからというので、三月に一回とか四月に一回やつていきます。このようにふだんから政治に関心をもちつうちに心掛けてやつております。

影山 ホスの肉類とか、団体の指導者がある特定の候補者をおすというふうなことは今までもあつたでしょうが、要するにその団体の会員の人が、自主的及び批判力と判断力を持てばその肉類はよくなつてくるのじやないか。女の肉類の中には、選挙しなければならぬという義務感、重正を感じている人がある。投票に行かぬいと悪いことをするような感じが重く響いて、ふだんから何も考えていないのに投票しなければならぬという考えは、大部分の女性の現実だと思います。その時に、その人自身も迷つて何が紙に書いて出さなければならぬという瞬間には、ホスなどの影響を受け易いということも、投票率一〇〇％ということがあまり重く出るということも、理想ですがその結果はこういうふうになつてくるのじやないかと思う。だからといって、わかつた人だけが投票すればいいというのじやなくて、気長に日漸から自覚しなければならぬ。自分の考えを

出すんだということを、個々の人が考える力を持っていればいだろうと思ひます。

司会 今のお話に關係しますが、五年前に私共の方で、農村婦人を対象に五つの村で調査したとき、ある村では投票率が九八％であつた。今回の肉類と同じように、あなた投票する人とうやつて決めたかど聞いたが、その村では自分で決めたと言つた人が五七％、投票率の最も高いところで、自分の決めた人が最も多いという現象が見られました。

影山 選挙が済むとケロッとする。なぜかだんからつと政治に対して関心をもちたがということも考へる。もう少しそういうことに対する積極的な活動がほしいと思う。

司会 大分時間が経ちましたので息をたいと思ひますが、今新聞などをにぎわしている、いろいろな政治肉類に対する関心はどうかというふうなことで、お話しいただきたいと思ひます。

影山 二大政党の確立ということについて理解が充分でないと思ひます。日ソ交渉についても、大體新聞に現われた新聞を出ないと思ひますが、米の統制政策については、具体的には関連のあるスルースでは、統制政策委員会というものを取つて調べている。

土田 保障について、老人肉類研究会というものがあつて、叔母の養老院を見に行つたり、また學生会にいつく無償に聞くというふうなことをやつていくスルースがあります。

肉類が重いということば、婦人肉類の論文を募集すると同時に各新聞にそういう投稿が現われてきておりますが、そういうのを見て、農村の事情とか都会の事情とか……そういう肉類は高まつてきていると思ひます。投票欄には毎日四十通位来ている。毎日同じ人が書いてくるわけはないが、毎日どこかで誰かが書いて意見を発表しようとする。ある時は「炭焼の香」というのも来た。そういう現象をもつと強くと、新聞ばかりでなくやつてゆけば、自信を持つてくると思

います。

伊東 お米の統制撤廃などは、特に女が台所を預つていきますので、こういう問題が起きますと、どうなるのかということでも考える。それは結局政治の問題に關心を移つてきてきている証拠だと思ふ。

新生活運動にしても門松の自衛運動なども、たゞ門松を自衛しようとするだけの問題が、財源の方にどういふ問題を持つてゐるか、というように皆さんがだんだん関心を廣めていつてゐる。ということ、は事實だと思ひます。

司会 それでは婦人の参政権に対する條約にこんど日本も加入して、当事國になつたわけですが、そういう点の認識はどうかでしようか。

渡辺 私はほとんど認識されていゝと思ふ。

小野 私共の方は、時報に載せて廣くましましたので、さういふ問題かということはおわかつております。

渡辺 これは本報活動が足りなかつたのですか。

高橋銀長 従来日本の婦人参政権は行政の露い子だといふ觀念が相當あり、近年になつては婦人参政権に対し、あつてはいい方がいゝといふ声が聞かれぬでもない。憲法改正といふことに、婦人参政権も含まれてゐられることもありませうが、婦人参政権に対する不安といふものがあつたと思ふのです。これが今回、日本政府のインシアティブによつて、條約に加盟したということ、一応政府が國家の意思として婦人参政権といふものを内外に宣明したということ、不安を消す意味で非常に意味が強いと思つたわけですが、――

司会 では今後の國家指導の在り方について、個々の段階でさういふことが必要かということから、政府とかシャーマナリズム方々への要望ということも含めて、もう一度お話し合ひたいと思ひますが、

外
ハ

堀内 私達の方の立場から申しますと、割合にハッキリしてゐるわけですが、まず議員の実績といひますか、私共の議員が議員を、たゞ単に選挙の公約だけであつて、個人どうに約束したことをやつてくれたかどうか、常に監視してこの会合でも問題を提えて話題にのせまう。

政治問題については、研究を怠らぬようにして、たとへば民自党がいついふ公約をして、果して実行してくれたかどうかということについても、衆議院の度には検討する。今度制定された母子福祉の法律についても、私共が壁に突つた問題の解決にさういふふうにしてくれたかということといつても話してゐる。選挙の時だけであつて、常に一層政治に直接してゐる身近な問題を捉えて、未端の人にも話合ひができるように、卸落々々でなるべく小さい集りをして、夜分でもかまわぬから集つてさういふ問題を話し合ふといふように懸案をしております。

高橋 私共は政治啓蒙が主目的でありますから、一番苦勞してゐるもので、それで考え出したのが井戸端會談的反響會合といふ会です。これは金費の家の近所のせいぜい十人位の方達に集つていゝで、スライドを持つて本部の方からお話しに行く。そしてたとえば、水道の値段が上がるということと話し合つたりして政治意識を高めるよう努力してゐます。さういふことをしてゐる。これは、若い人達よりも年寄りの方々がよく集つてきて、熱心にいろいろ話をして出すといふことです。これも限られた人達だけで、もつともつと啓蒙活動が必要だと思ひます。

司会 啓蒙がもつと必要だといふお話しがありました。渡辺さん、影山さんなどから、婦人団体に対して、客観的に見ていゝしてお氣付くことなどをおつしやつていただいたらと思ひますが、

渡辺 さつきさんのことにふれたが、これは政治意識を高めることと、団体内の民主化活動と、ちやう

を師が夫が題が夫がという問題と同じになるが、もしも人々が、さうして、日本に、ある程度、
体というものは、内部に民主化されたいものがある。私がまずお願ひしたいことは、団
体員が日本人という目覚めてもらいたい。つまり、日本人会なら、会員意識を、同じく持つ。組合におい
ても、それだけ組合大衆が組合意識を目覚めていられるか、ということから始めて、行かなければ、本筋
では、ない。政治場心というものは、なかなか生れてこない。政治意識と併せて、さういふ教育を、一
にやつてもらいたい。それから、話がそれるかもしれない。政治と政治の問題です。あまり
目先の生活だけ追いかけていっていると、その時の政策に動かされてしまつて、さうにもならないこと
になる。たとえば、東洋は凶作のあとを受けて、お米が足りなかつた。この時に、粉食運動が起きた。
粉食運動というのは、私共の食生活に、高めてゆくことによつて、やられなければならなかつた。そ
れが一部に行くと、今早はお米が足りなから、小麦を食べると言つてゐる。それは、生活運動に
ならない。もっと生活の本質を考える。意識の仕方、これが私は特に大事なことだと思う。私共、生
活運動を七年やつておりますが、そこで強調してきたことは、生活、習慣の中に眠つてゐるわれ
れの生活意識を、まず喚びさますということをやつてきた。生活意識に目覚めれば、その生活がわ
れわれの全部の人々から、経済の問題に繋り、教育の問題に繋つてゐる。生活の意識がハッキリ
り目覚めれば、政治意識も目覚め、考え方がハッキリしてゆく。さういふ本質的なものを、さうし
私達は、突進人で、啓蒙してゆく必要がある。さういふことで、一つの障壁になるおそれがあるのが、関
の教育に、二法にやないか。これは、主として、学校の教育に課された法律ですが、それは、社会教育の面
でも影響を受ける。――去年も、農林省が結した、生活改良というものを、強めて行こうとするこ
と、農村において、それを妨げている問題について、生活の中さういふ意識を目覚めさせること
が非常に大事ですが、それをやるには、積極的に政治の啓蒙、政治教育を併せてやる必要がある。

あるが、さういふ点が少し欠けていられないか、ということ。私は、述べた、折角さうして政治につ
いての関心を高めようとする人々が、努力してゐるが、そこが、目と鼻の先で、さういふ問題が、最
近非常に多くなつてきている。たいへん残念なことだと思います。充分に卒面に政治の問題を語れ
るという空気が、環境を早く作りななければいけない。

影山 こうした方が、いいのでなく、私の考えは、各種の団体――ここにいろいろの方々が来てお
られますが――が、それぞれ役割を果してゐると思ひます。それらが、有機的な結合をすることが必
要じやないかと考えています。婦人団体がいくつもありますが、それぞれ一つの契機を生れたと
思ひますけれども、その生れ方が必ずしも合理的でなかつた点が批判される。そこで、渡辺さん
がおつしやつたような団体の民主化ということも、必要じやないかと思ひますが、さういふものが
各個バラバラに生つてゐる。婦人団体といつても、社会問題をあつて、わたし達の住人である社会
の中の過半数の選挙権を持つてゐる女性の人達、もつと政治のことと考えるべきではないかと思ひます。
い。ある意味において、必然性があつて、団体が作られてゐると思ひます。その有機的な結合、
合理的な結合、個々の人が批判力を持つてゐるならば、合理的に近いものと考えます。具体的に、
その中の時間の許された人達が、集つて、会合を持つとか、新聞紙を交換するとか、あるいは、自分
は、労働組合にゐる。あるいは、有機的な結合のチャイナスも生れてくると思ひます。

若宮 たもです。さういふふうに望んでゐるのですけれども、実際の問題としては、その前に問題があ
ると思ひます。渡辺先生のいわれる組織の内部の民主化ということだと思ひます。一人一人
が、本当に考えたり行動を起すという人間になる。これは、学校教育の中からも考えられてきてゐるの

ですか、やっぱり社会に出るとそれが具体的に伸びない、ぐたつと返つてしまふ。今の青年団の一番の課題はそこです。私達の政治や社会をよくする前に、自分自身の生活自体をよくしてゆくというところから入らうじやないかということ、今までは幹部の人間士を婦人会とか農協とか、実際に村にある団体と手を結んで懇談会を開くというようにして、実は渡辺先生も私共の中に入つていただいて、新しい生活拡充の方針とか方法とか、二、三年かかつてやつてゐるわけです。時間がかかつてたいへんな仕事をすけれども、そういう生活をも分遣を雇人とうにしっかりと握えるということをやつていきますと、結局政治や経済の問題にふれてきて、協力しているということが自然的に出てくるのじやないかと思つてやつていきます。

司会 最後に、婦人団体や労働組合から。

山場 一般的には政治的胸心が弱いと先般申し上げたが、若い人達が工場に入ってくる時には、非常に大きい希望を持つてくる。これは働きながら勉強ができるということが大きい魅力になつてきていると思う。向学心にもえた人がたくさんいて職場に入つて勉強するとか洋裁を習うとか熱心なやつてゐるが、政治に対してまで勉強がゆかない。本部としてこういうことをやつてゐるかどうか、やはり婦人運動を中心としてそういう問題を啓蒙するわけをすけれども、耳向を通じて日常活動が一番盛んわかつてもらえるので、やはり一般の団体と結合して、新生活運動の場合もそうであるし、賣春禁止法促進とか、家族制度復活反対の問題等を自分の組織だけでなく資料を送つたりしてやつてゐる。組織の中では政治には無関心だという形がだんだん少なくなつてきている。やはり、そういうことをやつたら一番効果があるかということ、は、日常活動を積み重ねてゆく以外にない。

堀内 各種の団体の結合と云うことは何かということ、は、常に考えております。

先頃私の方で母親の集いをしまして、二千八人近い人が集つてゐる意見が出たが、各種団体はそれぞれの分野で活動しておりますけれども、横のつながりがあまりない。つながりがあればいろいろな方面で互いに勉強ができると思われれる。

司会 まだお話しがあまりのことと存じますが、この辺で。

局長 今日はたいへん長い時間をお割き下さいまして、その上に貴重な御意見を承ねることができました。今日伺いました御意見はできるだけ私共の仕事の上に実際に使わしめたいと思ひます。